



京臨技会報

KYOTO ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所 (社)京都府臨床検査技師会

発行責任者 湯浅宗一

編集者 佐々木由紀子

小原 伸之

白波瀬浩幸

〒602-8155 TEL・FAX 075-821-6711

京都市上京区千本竹屋町主税町 910

(京都保健衛生専門学校内)

CONTENTS

GREETING	会長就任のご挨拶
INTRODUCTION	平成 18 年度役員紹介
LECTURE	必読! Winny のホント。
REPORT	平成 18 年度定期総会
TRIVIA	大豆イソフラボンの安全について

会長就任のご挨拶

京都府立医科大学附属病院 湯浅 宗一



この度、社団法人京都府臨床検査技師会会長を務めさせて頂くにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

京臨技は 1952 年(昭和 27 年)3 月 22 日近畿地方衛生技術者協会の設立に始まり、2002 年(平成 13 年)に創立 50 年を迎えました。この間、大きな事業、新しい事業に幾度となく取り組んでこられた諸先輩方のご努力の跡がうかがえます。これまでの諸先輩方のご努力の結果を更に発展する事を求められることから、大変な重圧を感じておりますが一步でも前進するように努力してまいりたいと考えております。

私に取りましては 2005 年、27 年ぶりに全国学会(第 54 回日本医学検査学会)を京都で開催し成功裏に終了しましたことが大変印象に残っている出来事です。今回の学会成功は諸先輩方を始め、京臨技会員のたゆまぬ努力の結果であり、この努力を今後も継続して京臨技活動につなげていきたいと考えております。

京臨技は 2005 年、名称を社団法人京都府臨床検査技師会と改め、新たな出発をしました。京臨技は職能団体と学術団体としての両方の役割を果たすべき団体であり、この役割をしっかりと果たすことが求められております。このような中であって役員一同この目的に向かって力を合わせ努力することが京臨技、ひいては日臨技の発展につながっていくものと思っております。もちろん、会の発展は役員のみだけでは出来るものではありません。そのためには会員一人一人が京臨技、あるいは日臨技に対してより強く関心を持っていただくこと、それぞれの要望、意見等を京臨技に寄せていただくこと、そしてそれらが会員にとって、社会にとってどのように影響を与えるのかを役員が慎重に審議、実行していくことが会を発展させていくことだと考えます。そういう意味では是非ご意見、ご要望をお聞かせ下さい。お願い致します。

今年からは JICA 仏語圏アフリカ臨床検査技術 JCS 研修が開始されます。この事業は近畿技師会が一つとなってこの研修を受け入れるもので、関西では初めての研修です。特に、既に関東では以前より JICA 研修は開催されておりますが、関西では近畿技師会が一つとなって受け入れるという新しいスタイルで開始することから加alam、実習内容については技師会を中心に JICA、JIMTEF と共同で検討し、また現地視察も行い、実習内容の充実をはかっております。このような研修に対して京臨技も積極的に応援し、この研修を是非成功させてなければならないと考えております。

このように京臨技役員一同は平成 18 年度の事業計画に従って事業を進めながら、近臨技事業、日臨技事業にも積極的に関わり、課題解消に向けて一步一步歩いていくつもりです。

どうか会員の皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。

役員紹介

理事・監事

氏名
所属
役職・担当



湯浅 宗一
京都府立医科大学附属病院
会長



廣瀬 真理
明治鍼灸大学付属病院病理部
事業副部長、施設責任者、渉外



白波瀬 浩幸
洛和会ヘルスケアシステム
副会長（総務部担当）



大田 小百合
社団法人愛生会山科病院
施設責任者会議、渉外



芦田 英之
京都第二赤十字病院
副会長（事業部担当）



豊山 浩祥
京都桂病院
精度管理、渉外、総会



今井 秀一
綾部市立病院
副会長（学術部担当）



荻野 和大
三菱京都病院
学術部長、渉外



小澤 優
京都保健衛生専門学校
総務部長、事務局



林 孝俊
京都民医連中央病院病理科
学術副部長、生涯教育、広報



林 雅弘
相馬病院
総務副部長、書記、総会



白井 孝夫
京都大学医学部附属病院
学術、書記



江見 安一
京都大学医学部附属病院
会計、JAMTIS担当



若栗 昌枝
洛和会音羽病院
学術、生涯教育、広報、



丹羽 紀実
京都大学医学部附属病院
会計、広報、渉外



小原 伸之
国立病院機構京都医療センター
学術、チーム医療、広報、渉外



石澤 衛
京都府立医科大学附属病院
事業部長・精度管理



今田 尚文
市立舞鶴市民病院
学術、書記



佐々木 由紀子
京都城南診療所
事業副部長、広報、渉外



清井健司
京都民医
連第二中央
病院



山口俊朗
京都民医
連中央病院

監事

副会長就任のご挨拶

京都第二赤十字病院 芦田 英之



平成 18 年度定期総会が 5 月 27 日、京都アスニーにて開催されました。第 6 号議案の平成 18・19 年度役員選出にて、不肖ながら新副会長に選任されました芦田英之です。

今年度から 3 副会長制度となりました、他の副会長とも協力して湯浅新会長を支えていきたいと思ひます。

学術・職能団体として従来からの方針を継承し、学術活動・事業部活動の充実に向けて総務部・事業部・学術部が充分機能できる体制や人作りにも邁進します。渉外活動としても、他団体との交流、検査技師の社会的立場の確立に向けて尽力します。新役員とともに全力を尽くして当会の発展に貢献する所存です。

より一層の、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

役員紹介

研究班長

氏名
所属
研究班



山田 宣幸
三菱京都病院
生理検査



黒川 聡
国立病院機構京都医療センター
細胞検査



多気 秀和
京都第一赤十字病院
輸血検査



佐伯 仁志
国立病院機構京都医療センター
一般検査



小寺 宏尚
京都市立病院
血清検査



小野 保
京都第二赤十字病院
微生物検査



志賀 修一
京都大学医学部附属病院
血液検査



増田 健太
京都大学医学部附属病院
情報システム



江口 光徳
宇治徳洲会病院
病理検査



四方 学
綾部市立病院
北部学術

副班長

生理	辻 真一朗	京都桂病院
生理	小原 伸之	国立病院機構京都医療センター
輸血	相田 幸雄	京都南病院
血清	三嘴 隆一	大津赤十字病院
血清	小坂 明	久野病院
血液	中西 加代子	京都大学医学部附属病院
血液	橋本 誠司	京都大学医学部附属病院

病理	磯島 喜孝	京都府立医科大学附属病院
病理	竹腰 友博	洛和会音羽病院
細胞	林 久志	ファルコバイオイムノシステムズ京都
一般	角田 和史	SRL京都ラボクリエイト
微生物	小森 敏明	京都府立医科大学附属病院
情報システム	小森 敏明	京都府立医科大学附属病院
北部学術	小川 英志	市立福知山市民病院SRL検査室

『必読！Winnyのホント。』

【Winnyとは】

WinnyとはP2P¹⁾技術を利用したMicrosoft Windowsで動作する(ほかのOSでは動かない)不特定多数のユーザーがファイルを共有するためのアプリケーションである。開発者は元東京大学大学院情報理工学研究科助手の金子勇氏。開発された当時、同じ用途で用いられていたWinMXの次を目指すという意味でWinNY(MN、XY)と名付けられた。被告が逮捕された当時の最新版は『Winny 2.0Beta7.1』であり、その他クラック版として開発者非公認のバージョンが存在する。正確なユーザーはわかっていないが、数十万人程度(そのほとんどが日本人)だと言われている。

【Winnyの特徴】

本体プログラム、設定ファイル、ファイル共有フォルダという3つの構成要素からなり、共有しようとする元のファイルから名前や存在場所などが書かれている「キー」と、データを暗号化・断片化した「キャッシュファイル」の2つをファイル共有フォルダ内に作る。この2つを使い分けることで匿名性と効率性が両立されている。但しこの暗号化はかけ方が甘いので個人レベルでも十分解読できる。またP2P方式のためシステム障害に非常に強いことも特徴の1つである。

【Winnyの通信】

Winnyが稼動する個々のパソコンを「ノード」と呼び、その接続状態を「リンク」と呼ぶ。FTTH²⁾のような高速回線ほど上流のノードになり、下流には低速のノードがぶらさがる。Winnyでファイルを公開するとそのノードは定期的に「キー」を拡散させる。具体的には上流のノードから検索リンクを通じて拡散要求がコマンドとして届く。コマンドを受け取ったノードは自分の持っているキーを送る。拡散させる方向は上流向きで、実際にファイルを公開しているノードが1台であっても、「ファイルがここにある」という情報は(この段階ではファイルそのものの内容は含まれない)上流方向の多くのノードが持つことになる。Winnyではファイルの検索も上流方向に向かって行われるのでキーと検索要求が合流し、ファイルが見つかりやすくなる。キーにはファイルの持ち主のアドレスが書かれているので、検索元のノードは持ち主に直接接続してファイルの転送を要求し、持ち主が許可すればこの時点で初めてファイル本体がダウンロードされることになる。

このようにファイル検索と転送処理を完全に分離することで効率よくファイルをやり取りすることができるフ

ァイル共有アプリケーションである。

【Winnyの違法性】

ではWinnyは違法なソフトなのだろうか。確実なことはあくまでWinnyはファイル共有アプリケーションであり、適法なファイルをやりとりする場合には何ら問題はないということである。ところがこのアプリケーションの特徴の一つである匿名性の高さは、著作権法に違反するソフトや法的に問題のあるソフト(例えば映画や音楽のファイル)をやり取りしたい者にとっては、非常に都合のよいアプリケーションであったために急速に利用者が拡大していった。京都府警察ハイテク犯罪対策室が著作権法違反(公衆送信権の侵害)容疑でWinnyの利用者2名を逮捕し、それを幫助したという共犯の容疑を問われWinny開発者も逮捕された。つまりWinnyそのものの違法性には言及せずに、それを利用して違法なファイルをやり取りしたユーザー、そしてそのファイル交換の場を提供した開発者に違法性を求めたのである。(2006年3月現在第1審は結審していない。)

【Winnyによる情報流出の仕組み】

次に昨今世間を騒がせているWinnyの情報漏洩について述べる。

Winnyのファイル共有が前述の段階で終わるのであれば、情報漏洩を特別に恐れる理由はない。公開したファイルを消せば他のノードはダウンロードすることができなくなり、漏洩をとめることができる。ところがWinnyで一度ダウンロードされたファイルは、公開をやめてもネットワーク上のどこかに残り半永久的に流通し続けてしまう。その理由はファイルのやり取りが全てキャッシュファイルで行われることにある。あるユーザーが公開したファイルを他のユーザーがダウンロードし終わると、その瞬間にネットワーク上ではファイルの配布元が1つ増えたことになる。ダウンロードされるたびにこれは繰り返される。またそれと同時に「キーの書き換え」も行われる。キーの書き換えとは自分が持っているキーを他のノードに渡すときに、キーに含まれるアドレス情報を一定の確立で自分のものを書きかえることである。一度キーの書き換えが行われると、おおもとのファイルの流出先がわからなくなる。Winnyによる情報漏洩が怖いのはこうした仕組みによりファイルが拡散し、止められなくなる点にある。しかしそれでも公開したくないファイルは共有フォルダにさえ入れなければ、Winnyが正常に動作している限りこれらのファイルは流出することはない。実際に現在までに報じられているほとんどの症例は、悪

意を持って個人情報などのファイルを流出させたものではないことがわかっている。

【Winny による情報流出の原因】

では、なぜこんなにも同じような事例が頻発しているのだろうか。原因は暴露ウイルスである。これらは本質的には Windows そのものもつウイルスへの脆弱性を利用しているので、この仕組みを知ることは Windows のウイルス全般に対する備えにもなるので、必要な知識として知って損はない。

暴露ウイルスへの感染が止まらない理由はとして主に 3 つが考えられる。1 つめは Winny ユーザーの目的が「ファイルをダウンロードして使うこと」にある。メールなどで送りつけられてくるウイルスはそれを実行せずに捨ててしまえば感染しないが、実行することを前提としてファイルをダウンロードしているのだから、必然的に感染する可能性は高くなる。2 つめは Winny で流れているファイルは非常に高い確率（約 1/3 ともいわれている）でウイルスがはいっているということである。経験と知識の浅いユーザーはこれでほぼ間違いなく感染してしまう。3 つめはこれらの暴露ウイルスが、一見ウイルスに見えないようにファイル名やアイコンに偽装していることである。実際にはプログラムなのにテキストファイルやフォルダのアイコンに偽装していたりする。これは多少使い慣れたユーザーでもうっかりファイルを開いてしまうほど危険性が高い。

【Winny による情報流出の実際】

前述のように Winny で入手したファイルを開覧することにより暴露ウイルスに感染し、その結果として Winny 使用者が本来公開する意図のないファイルが Winny のネットワーク上に流出するというものがほとんどである。

実際に流出したもとしては、企業の業務データ、個人の電子メールデータなどである。また昨今は大容量 USB メモリの普及により、職場のデータを自宅に持ち帰り作業をする 自分の知らない間に家族などによって自宅のパソコンに Winny がインストールされ、ウイルスに感染

当事者の知らない間に企業データの流出等という事例も多発している。この被害は民間企業や個人だけにとどまらず、警察、陸上・海上・自衛隊、日本郵政公社、刑務所、裁判所、日本の原子力発電関連施設、一部の地方自治体など官公庁でも流出事件が発覚している。「山田オルタナティブ」というウイルスは、感染するとパソコン自体を Web サーバーとして立ち上げ、ハードディスクの中身を全世界中に公開してしまう。つまりこのウイルスに感染すると、全世界中の PC からあなたの PC データが丸見えになってしまうウイルスである。

繰り返しになるがひとたび流出した情報は継続的にユーザーの誰かのノードあるいはネットワーク上にとどまり続け、それを削除することは現実的にほぼ 100%不可能

である。

【Winny への対策】

ではこのような被害を避けるにはどうすればいいのだろうか。

まずは Winny を使用しないこと。これが非常にシンプルなかつ一番の対策である。しかしこれだけでは不十分である。前述の山田オルタナティブのようなウイルスも存在する。つまりネットワークにつながっている PC は常に悪意のあるウイルスにねらわれているという意識を各ユーザーが持ち、信頼の置けるメーカーのウイルス対策ソフトの導入することも必須である。「しかし医学と同じでウイルス対策ソフトは既知のウイルスに対してのみ有効である。新しいウイルスには全く無力であることも知っておかなければならない。

【今後の展開】

パソコンは非常に便利な道具である。ただ多くのユーザーはその中身について余りにも無知なのではないだろうか？臨床検査の世界と似ている部分はないだろうか。現状我々の日常業務は多くの便利な機器を使用することによって支えられている。ユーザーである私たちはその機器の特徴（長所と短所、そしてその短所を補う方法）を十分に熟知しているはずであり、その長所を生かし、短所を補うことこそがプロとしての仕事である。PC を使用することに関してもこの道理は通じるはずである。一度、情報の流出源になれば「パソコンよくわからないし・・・」で済むはなしではなくなっている。また、よくわからずに報道されているから、「そんなに簡単に便利なことが出来るのなら Winny やってみようかな」ではあまりにも無知ではないだろうか。

最後に一言。違法なファイル交換と知りつつそれでも Winny を用いることを続けているユーザーにも責任の一端があるのではと考える。

（文責：情報システム分野 丹羽）

1) peer to peer の略。中央サーバーを持たず、器機同士が直接通信する形態のこと。IP 電話も P2P 通信である。

2) fiber to the home の略。光ファイバを使った家庭向けのインターネット接続サービスのこと。

参考)

日経 NETWORK5 月号 特集 1 情報流出はどうやって起こるのか 徹底説明 Winny & 暴露ウイルス

次号より『知っ得！ネットワーク用語講座』を連載開始予定です。知ったつもりになってるネットワーク用語についてわかりやすくかつ詳しく説明していきます。乞うご期待。

REPORT

総会報告

平成 18 年度定期総会開催

5月27日(土)



平成18年5月27日(土)京都アスニー第3研修室において平成18年度定期総会が開催されました。出席者は会場出席56名、委任状出席480名でした。司会は京都保健衛生専門学校小澤が努め、総会議長には京都民医連中央病院病理課稲本氏が選任されました。

第1号議案の説明は清井会長、第2号議案の説明は会計担当江見理事、第3号議案は山方監事がそれぞれにされました。会場から寄付金収入の詳細と個人からの寄付金の対応について質問され、寄付金の詳細は北部会員からの寄付であること、個人寄付の税金の取り扱いについては税理士と相談し明確にしておく説明、返答がされました。ここで第1号議案から第3号事案まではそれぞれ承認可決されました。

次に第6号議案の平成18・19年度役員選任案が鷲津役員推薦委員長より説明され異議無く承認可決されました。

続いて第4号の平成18年度事業計画案が新役員となる湯浅会長、白波瀬副会長、石澤事業部長、荻野学術部長、研究班各班長より詳細に説明されました。会場から京臨技事務所確保が遅れている事について質問があり、湯浅より慎重に進めており今年度中に確保予定であると説明されました。また、学術活動で臨床化学研究班は活動予定が未定なのは何故か、日臨技活動の方向性と関係があるのかと質問がありました。この件について荻野学術部長より、日臨技の活動とは関係なく京臨技の研究班活動として昨年も活動できていない事。また、臨床化学研究班運営を今後理事会として対応し他研究班との合同企画も含めて運営の正常化を図ることが説明され、承認可決されました。

第5号議案の平成18年度予算案について会計担当江見より詳細に説明され、会場より質問、異議等なく承認可決されました。

以上により議案審議は全て終了し、今期で退任する理事への労いの言葉と新役員の紹介があり平成18年度定期総会は終了となりました。



(文責：京都保健衛生専門学校 小澤 優)

平成 17 年度 第 9 回理事会議事録

日 時：平成 18 年 03 月 09 日(木) 18:30~20:40
場 所：京都保健衛生専門学校 大会議室
議 長：清井
出席理事：清井・小坂・白波瀬・芦田・石澤・今井・江見・荻野・小澤・菊池・佐々木・白井・杉浦・林(孝)・廣瀬・山口・若栗
委任状による出席理事 なし
欠席理事：林(雅)
欠席監事：宮本、山方
顧問：田畑
日臨技理事：湯浅

【報告事項】

1. 会長行動報告
癌医療を考える会 代表 佐藤好威氏より
癌シンポジウム「京都府のがん医療 今日と明日」開催へ協力と賛同
02/21 50周年記念誌発刊実行委員会(京都保健衛生専門学校)
02/24 田中技師長訪問(京大検査部)
03/04~05 近畿理事会、日臨技地区連絡協議会および近臨技OB会(和歌山・加太)
03/08 京都病院学会実行委員会 第2回実行委員会(京都府医師会館)
2. 各理事・事業部報告
江見理事より
03/03 現在の会員数は923名(新・再入会95名含む)
小澤理事より
・平成17年度第2回日臨技定期総会

- 03/06 現在、委任状回収数；292
- ・03 月分行事予定、研修会案内、役員選挙案内、綱紀肅正、患者さんへの配慮を発送
 - ・04 月分行事予定発送 京臨技定期総会案内同封 03/20 発送予定
 - 杉浦(50 周年記念誌)理事より
 - ・50 周年記念誌の校正状況、03 月中に印刷・発送予定
 - 荻野(プライマリ・ケア)理事より
 - ・京都プライマリ・ケア協議会役員会 02/22(京都府医師会館)
 - ・第 28 回日本プライマリ・ケア学会(国立京都国際会館)の参加者数 2638 名
 - ・仏教大学プライマリ・ケア市民講座(昭和 61 年-平成 17 年)を平成 18 年度より中止
 - 石澤(精度管理)理事より
 - ・平成 17 年度京臨技精度管理の結果報告編集中、03 月中に発送予定
 - 菊池(衛生検査所精度管理)理事より
 - ・平成 17 年度衛生検査所立ち入り検査を『BML 福知山』と『いかがく』で実施

【検討議題】

1. 会員への通知文面に対する抗議文について
会員に通知した『患者さんへの配慮について』に対して抗議文があり審議(検討)
2. 総会準備の進行状況
・公開講演は『DPC 導入について』講師は山口理事から推薦
・学術部長、事業部長で報告事項を編集中、各担当理事、研究班班長に再度報告要請する
・各施設に出席、委任状の提出を催促する(承認)
3. 平成 18・19 年度 京臨技役員案について
清井会長、林(彰)・菊池・杉浦理事、宮本監事が退任を希望
新役員について審議(検討)
4. シンポジウムへの協賛・依頼について
がんシンポジウム「京都府のがん医療、今日と明日」(03/25)
(共催；がん医療を考える会、特定非営利活動法人 HLA 研究所)への協賛(承認)
5. その他
50 周年記念誌について
校正と確認事項(印刷部数、発送先、予算、カラー掲載、表紙の色など)(承認)
次回理事会開催予定
平成 17 年 04 月 06 日(木)18:00～ 京都保健衛生専門学校 大会議室以上で本日の理事会を終了
議事録署名人 江見 安一
白井 孝夫

平成 18 年度 第 1 回定例理事会議事録

- 日 時：平成 18 年 06 月 01 日(木) 18:30～20:30
場 所：京都保健衛生専門学校 大会議室
議 長：湯浅
出席理事：湯浅・白波瀬・芦田・今井・小澤・荻野・石澤・江見・丹羽・林(雅)・白井・今田・豊山・小原・大田・廣瀬
委任状による出席理事 佐々木・若栗・林(孝)
欠席理事：なし
欠席監事：なし
欠席監事：山口・清井
出席顧問：田畑

【会長挨拶】

湯浅会長から 2 年間の目標として代議員を 2 人にする為会員数を 1000 人にしたい事、長年の課題であった事務所の開設をし

たい事を含めたあいさつがあった。

【報告事項】

1. 会長行動報告
日臨技関係：なし
近臨技関係：なし
京臨技関係
05/17：京都市へ精度管理専門委員必要書面送付
05/29：京都府へ精度管理専門委員の推薦書送付
* 佐々木理事を推薦
2. 各理事・事業部報告
江見理事より
・05/29 現在京臨技会員数 917 名(新・再入会 48 名を含む)
・17 年度の会計報告をホームページに掲載(法律改正により)
荻野理事より
・05/24：第 33 回くらしと健康展 第 1 回実行委員会(京都府医師会館)
開催日時：平成 18 年 09 月 16 日(土)、17 日(日)
開催場所：京都府総合見本市会館(パルスプラザ)SKY ふれあいフェスティバル 2006 すこやかゾーン(第 1 展示場)
小澤理事より
・定期発送終了 998 件
6 月行事予定、京臨技総会議案書、会誌、50 年の歩み正誤表
・定期総会終了
会場出席者 正会員 43 名、賛助会員 12 名、監事 1 名、委任状、479 名、6 議案全て可決承認された。
・法人登記・報告書作成中
・新会長、新役員の挨拶文作成中
・役員就任に関して施設への委嘱依頼を作成。
・次回定期発送予定
発送物回収締め切り：06/20 の 17 時、発送は 06/22 予定
・新名刺の確認
・医療フォーラムの出席依頼 06/17 付け
・第二日赤事件の裁判について裁判日程を含めて報告
・会議中の名札の付帯の再確認

【検討議題】

1. H18・19 年度役員担当案について
原案を一部変更し後日ホームページに掲載(承認)
2. 京臨技理事会開催日について
第二木曜(承認)
3. 他組織との共催等における参加費等について
会員と非会員の差別化を明確にするため、両組織とも非会員の参加者からは 3000 円を徴収する。(承認)
4. 医師会合同研修会京臨技演者について
開催日：平成 18 年 09 月 02 日(土)14:00～17:00
講師：岡上 武 京都府立医大教授(医師会)
テーマ：「肝炎ウイルスマーカーでここまでわかる」
司会：中島悦郎医師(中島医院理事長)
学術部長から血清研究班に京臨技技師演者依頼(承認)
5. アンケート依頼の対応について
JCCLS, JAB より[IS015189 の理解のためのセミナーの賛助についてのアンケート]
参加料がかかるので希望施設は事務局に連絡(承認)
6. 理事のリンクス加入の検討について
顧問・監事の加入は見送り
理事全員と事務員の山方けい子氏で加入(承認)

次回理事会開催予定 平成 18 年 07 月 06 日(木)18:00～
京都保健衛生専門学校 大会議室
以上で本日の理事会を終了

議事録署名人 江見 安一
白井 孝夫

Trivia

大豆イソフラボンの安全について

昨今、話題になっている健康食品ですが、今回は大豆イソフラボンで蒞蓄を・・・

大豆イソフラボンを配合した特定保健用食品について、内閣府食品安全委員会の専門調査会は、妊婦や子どもの摂取は「推奨できない」とする安全性評価をまとめました。大豆食品は蛋白質源として健康的で、安全性に問題は無いとしています。

しかし、大豆イソフラボンの錠剤を 5 年間にわたって毎日 150mg 摂取した女性に子宮内膜が増える影響が見られたことと、さらに、妊娠した実験動物に大量投与した場合、子宮や胎児の生殖機能に異常が見られたことも報告されています。

同調査会では妊婦や子どもが毎日摂取した場合、安全性や健康上の利益が科学的に証明できないとして、男性や妊婦以外の女性は、普段の食事以外に追加して摂取する上限量の目安を「1 日 30mg」としました。(読売新聞 3 月 10 日付)

大豆イソフラボンには女性ホルモンに似た働きがあり、更年期障害や骨粗しょう症の予防効果があるといわれ、錠剤やサプリメントも市販されていますが、出来れば、豆腐、納豆、黄な粉、厚揚げなどの大豆製食品から摂取したほうが良いかもしれませんね。

という内容をメルマガで読みました。私が調べた訳でもなく責任が・・・
資料として、「社会人の知って得するハンドブック」から一部転載しました。

また、私がコラムを担当しているHPを宣伝しておきます。

フルフルWEBの健康情報 <http://www.flouflou.com/> も今後、皆さんで可愛がって下さいね。

(京都第二赤十字病院 芦田 英之)

編集後記

今年は総会後の記念講演会に DPC をテーマに取り上げました。平成 18 年度の診療報酬改定で「急性期特定入院加算」が廃止され、急性期病院の新たなシンボルが DPC になったような印象があります。実際ほとんどの DPC 調査協力病院は DPC 適用病院になり、さらに多くの病院がこれから DPC 適用病院へなるため手を挙げているようです。

DPC (Diagnostic Procedure Combination) とは、いわば一日当たり疾患別定額払いの支払い方式ですが、手術などの高額医療分は包括評価の範囲外で、別途出来高で支払いされます。臨床検査や薬剤費用は包括範囲の中に入るため、DPC 適用病院では無駄な検査の削減やジェネリック薬品への切り替えなど、コスト削減に努めます。

話は変わりますが、京臨技の臨床化学検査研究班が休眠状態にあります。これは DPC をはじめとして医療環境が確実に変化していくなか、分析系の検査に関心を持つ臨床検査技師が少なくなっているのが要因のような気がしてなりません。

医療環境が変わっても若手と呼ばれる会員の方は学術的な興味を失わずに探究心を持ち続けてほしいし、中堅と呼ばれる方は巨視的な視野で医療をみる目も併せ持って、今後の臨床検査技師のあり方や活躍の方法などについて考えてほしいと思います。

そのなかで京臨技に期待されることなど、ご意見をお寄せくだされば幸甚です。(白)